



Aコープ 久賀店(久賀町)

2002.12.15 OPEN
久賀町大字久賀4721-1
OPEN/9:30~18:30



取材に応じてくださった方
店長・西村 裕次さん

以前から「生産者直売所コーナー」を店内に作っていたので、すんなりとした流れで「やまぐちコーナー」を設置でき、お客様にもスムーズに受け入れてもらえたと思います。土地柄で、県内産以外にも広島産も結構入りますが、地元産のものは、みかん・キウイ・いちじくなど果物類が主。市場で仕入れてくる分と直売の方と合わせると、ほうれん草や春菊、里芋、ネギなどいろいろ揃っています。このあたりは当店を含めスーパー



見やすく分かりやすい消費者の立場に立つたコーナーづくり。
(右) 生産者直売所コーナーには採れたての野菜や果物が並びます。

みんなの販売協力店

「県産農産物販売協力店」は、地元消費者のみなさんに県産農産物をより身近に感じてもらう、利用しやすいように、生産者・流通業者・販売者が一緒になって作っています。このコーナーでは、「販売者」の方に焦点を当て、「やまぐちコーナー」をよりよいものにするための取

り組みや、今後の抱負など、販売者からの声をお伝えいたします。

「県産農産物販売協力店」の情報は、見つめて！やまぐち農産物愛用推進委員会のホームページ「見つめて.net」にも掲載しています。こちらもあわせてご覧下さい！↓ホームページアドレス！
<http://www.mitsumete.net>



当店で、直売コーナーの会員さんのために年に1~2回程度、野菜生産講習も行っています。このおかげで私たちも一緒に作っている気になれるし、お客様にも生産者の頑張っている気持ちが伝わりやすい。こうした取り組みを通して、生産者の姿勢が消費者に支持されていくのだと思っています。



店長・西村さん

1が3店舗あるんですが、他店にないうちの特徴は、常設の「生産者直売所コーナー」。直売コーナーは約20名の会員さんからなり、だいたい平均5人くらいの生産者の方の旬の農産物が並びます。こうした地元の方とのつながりが店にとって何より大切。なかでも、作る時からのいろいろな考えながら積極的に農業に取り組んでいる70歳くらいのベテランの方がいらつしやる。そういう人がいると、他の生産者の方も「頑張ろう！」という気持ちになるし、お店やお客様もその元気をもらっている感じがして、活気が出ますよ。
今後は、直売コーナー会員を増やすなどして、もっともっと地元産の農産物の量を増やしていきたいですね。



青果主任・荒川さん

それぞれの地域でのこだわりをもった農産物づくりが何よりも大切だと思います。地域がひとつのブランドになれば、お客様の安心感や信頼度も上がり、購買欲も高まりますから。生産者とお客様がより高いレベルで協力しあえれば、地域全体が活気づくことにつながります。

作物を育てる上でのこだわりがある。無理は言えないし、育てることがいかに難しいかもよくわかります。だから、生産者の方には、自分たちのつくるものの価値観を高く持つてもらい、私たちはそれを大切に販売する。そうすることによってお客様に一つ一つの農産物の良さを伝えていく。これが大事だと考えます。

Aコープ 柳井店(柳井市)

2002.11.30 OPEN
柳井市中央3丁目17-15
OPEN/9:30~20:00



取材に応じてくださった方
青果主任・荒川 英美さん

今までも地元産のものを取り扱っていましたが、「やまぐちコーナー」ができて以前より規模も大きくなり、全体的にまとまりができました。うちで扱っている約7割の野菜が地元産なので、新鮮で安心して購入できるお客様にも好評です。もっと工夫や、他店に負けないような品揃えの充実をして頑張っていきたいですね。
柳井はもともといろんな農産物が揃う場所です。みかんなどはハ



葉ものから果物まで、さまざまな種類の農産物が揃う「やまぐちコーナー」。

ウスものも含めると1年中豊富に揃うし、葉ものも年中あります。その中でも、その時期で一番おいしいものを全面に出したコーナーづくりを心がけています。
お客様の求めるものは「新鮮で安くて安心」な農産物。そうした品を、お客様とのコミュニケーションを通じて、提供していきたいと思っています。アットホームな雰囲気はうちの特徴ですからね。生産者の方には、一人ひとりに作物を育てる上でのこだわりがある。無理は言えないし、育てることがいかに難しいかもよくわかります。だから、生産者の方には、自分たちのつくるものの価値観を高く持つてもらい、私たちはそれを大切に販売する。そうすることによってお客様に一つ一つの農産物の良さを伝えていく。これが大事だと考えます。

Aコープ 長門店(長門市)

2002.12.4 OPEN
長門市東深川1941
OPEN/9:30~21:00



取材に応じてくださった方
青果主任・木原 久雄さん

今の日本は、ものの旬がだんだんわからなくなってきました。お客様には、その時期その時期が一番おいしいものを食べてもらいたい。お客様にわかりやすいようにディスプレイなども工夫し、旬のものをしっかりとアピールしていきます。



地元(長門、日置、三隅)のものを全面に出して売り出していますから、「やまぐちコーナー」の反応はいいですね。市場が近くにあるので、



旬の農産物を全面に出したレイアウトで消費者に旬を伝える。

以前から地元産を取り入れていましたし、コーナーの農産物の3分の1以上は地元産です。1月中旬のイチオシ商品は「いちご」。長門・三隅のハウスで採れた甘い「さちのか」が最盛期になります。
地元産だけでなく量も限られてきますが、県内産として範囲を広げて考えれば、高冷地など気温の違いもあり、1つの商品でも長期で店頭に出せます。地元産で足りない場合は県内産で補うので、コーナーの農産物が足りなくなることはありません。去年は冷夏で一時期野菜が少なくなり、価格も上がりましたが、11月頃は例年よりも暖かく、野菜のでもも長くなって値段も下がり、ホッとしました。
2ヶ月に1回利用者懇談会を行い、生産者と消費者の方々に生の意見を聞いています。価格の問題から農産物の種類まで、お客様の意見はさまざま。とても参考になります。できることはすぐに実行、なかなか難しいことでも検討を重ねて、少しでもお客様の理想に近づけるよう努力しています。これからも、店員一同、お客様を大切にすることを第一に心がけて、地域のお客様に親しまれる店であるよう、頑張っていきます。

県内各地にある販売協力店では、さまざまな展開で皆様のご来店をお待ちしています。ぜひ、訪れてみてください！